

防虫ネットを活用したヤマトトウキ葉生産方法の検討

～奈良県ゆかりの薬用作物から生まれた新しい健康野菜をめざして～

1. 背景と目的

ヤマトトウキ（写真1左）は古くから栽培されている薬用作物です。根をお湯で揉んで乾燥させたものは、血行を良くする生薬として多くの主要な漢方薬に用いられるため、非常に重要な品目となっています。

従来、ヤマトトウキは、根のみが薬用として利用されてきましたが、近年、葉の薬用以外の利用が可能になったので、新しい健康野菜としての活用が期待されています。

しかし、キアゲハやクロモンシロハマキ等の害虫が大きな被害を与えるにもかかわらず、使用できる農薬がほとんど無いことが大きな課題となっています。そこで、防虫ネットを利用することで、害虫を効率的かつ安全安心に防除する方法について検討しています。



写真1 ヤマトトウキ(左)と防虫ネット被覆(右)

2. 研究成果の概要

ヤマトトウキの苗を4月に定植し、活着後の5月以降、ほ場を2mmないし4mm目合いの防虫ネットで被覆しました（写真1右）。

害虫発生状況を調査したところ、キアゲハについては、防虫ネットで覆っていないほ場では、8～9月ごろから幼虫が葉を食害している様子が確認されました。一方、防虫ネットで覆ったほ場では、目合いに関わらず発生は全く見られませんでした。また、クロモンシロハマキについても、防虫ネットで覆っていないほ場で発生が見られましたが、キアゲハと同様に、防虫ネットで覆ったほ場では発生が見られず、防虫ネットの有効性を確認しました（図1）。

キアゲハは幼虫が大きくなるにつれ大量の葉を食害します。また、クロモンシロハマキは株元に侵入して茎を食い荒らしますので、ひどい

ときには株全体が枯れてしまうこともあります（写真2）。従って、これらの害虫を防除できれば、生産上非常に大きなプラスになると考えられます。ただし、今回はクロモンシロハマキの発生が少なかったため、引き続き観察を続ける必要があります。

一方、防虫ネットで覆ったほ場では、アブラムシが多く発生することも観察されました。これは天敵であるテントウムシ等が防虫ネットによってほ場に入りづらくなったため、アブラムシの増加を招いたものと推測されます。アブラムシは、トウキ葉に重大な被害を与えることは少ないのですが、ひどくなると葉巻症状が出ることもあり、今後の課題として検討が必要です。

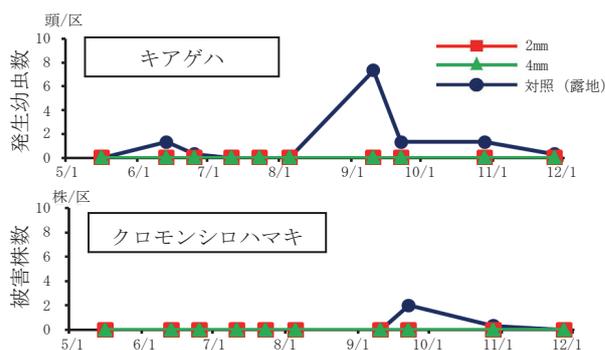


図1 異なる目合いの防虫ネットで被覆した時の害虫発生状況（2014年の結果）



写真2 害虫による被害の様子
(左：キアゲハ、右：クロモンシロハマキ)

3. 今後の展開

奈良県では薬用作物の振興に取り組んでおり、ヤマトトウキは重要品目の一つとして位置づけられています。従来の根だけでなく、葉の効率的な生産が可能となれば、用途の拡大ひいては生産者の収入の増大につながるものと期待されます。今後は葉と根の効率的な同時栽培技術などについても検討し、さらなる生産振興を図っていきたいと考えています。

(薬草栽培ユニット 米田健一)